

年間第三主日

2020.1.26

マタイ 4・12-23

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

3年周期のA年当たる今年の年間主日のミサでは、今日からマタイ福音書に語られているイエスの足跡をたどるようにして、ご一緒に福音のみことばを味わってまいります。今日の福音はガリラヤの湖の漁師であった最初の弟子たちにイエスが声をかけられた場面です。

「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」という謎めいたことばは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」という、ガリラヤから始まるイエスの宣教の開始を告げることばと関係しています。ヨルダン川での洗礼の場面において「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という、天からの声に指し示されたイエスがガリラヤのカファルナウムに来て住まわれたことによって、ガリラヤの地に天の国が近づいているのです。聖地の写真集などを手にとって見るなら、そこはガリラヤ湖周辺の丘陵地帯に広がる、花々が咲き乱れる緑豊かな美しい場所です。けれども、そこは同時に旧約のイザヤ預言者によって、暗闇に住む民の地、死の陰の地とも呼ばれている土地です。そのガリラヤにイエスによって天の国が近づき、大いなる光が差し込んだと今日のマタイ福音書は告げています。イエスにおいてイエスによって天の国が近づいていることを知ったなら、その福音がもたらす光に心を向けなければなりません。それが悔い改めるということです。

ガリラヤの湖で漁師の仕事をして暮らしていたペトロとアンデレ、ヤコブとヨハネの兄弟に目を留められたイエスは、「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」と呼びかけてくださいます。そのようにして、彼らをイエスにおいてイエスによって近づいている天の国へと招き入れ、イエスとともに人々を天の国へと招き入れるイエスの道の同行者としてくださったのです。イエスの後に従って、イエスとともに生きることによって、ガリラヤの漁師であった彼らはイエスの弟子となって、イエスが指し示す天の国を見る者たちとなったのです。

これからの年間主日のミサの中で味わう福音書に語られることは、今日の福音で「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」とイエスに呼ばれた最初の弟子たちがイエスとともにいて見たこと聴いたことに基づいています。そしてそれ

は、同じイエスの光に照らされて歩むわたしたちにとって、象徴的な意味をもって語られているわたしたちにとっての福音です。とりわけ、今日の福音に語られている最初の弟子たちのイエスとの出会いの物語は、イエスを信じる者とされたわたしたちにとって、わたしたちのイエスとの出会いの物語でもあるのです。ガリラヤの湖の漁師であった最初の弟子たちの側を歩み行かれたイエスは、わたしたちの側にも足を止めてくださって、わたしたちにも呼びかけてくださったのです。「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」。イエスがもたらされている天の国に向かってイエスとともに人々を呼び集める漁師にしよう。今日もこのミサの中でイエスはわたしたちに向かって呼びかけておられるのです。

イエスに声をかけられ、イエスの後に従って、イエスのお側近くにあつて、そのみことばを聞き、イエスが行われることのすべてを目にした弟子たちのように、主日ごとに聞く福音を味わってまいりましょう。

今日もわたしたちに呼びかけておられるイエスの天の国の福音に心を開いて回心の恵みを願って、イエスを囲む弟子たちとして、共にこのミサをささげましょう。